

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 9月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100174
法人名	NPO法人 沙羅林
事業所名	グループホーム沙羅林いそべ
所在地	群馬県安中市磯部三丁目1150-1 (電話) 027-384-0206

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5
訪問調査日	平成 20年 8月 22日

【情報提供票より】(20年6月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	280 円
	夕食	280 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月3日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.44歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜井内科医院 須藤病院 碓氷病院 林歯科診療所 吉井歯科診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所として終末期ケアに対する基本的な方針を有し、家族に対しても説明しており、家族の意向に沿った対応を出来るだけしたいという積極的な姿勢を示している。利用者の高齢化に伴うADLの低下でサービス内容(食事、入浴、排泄等の介助)が変化しており、開設当初に見られた職員と利用者が一緒に食事を作り、掃除をするというような共に生活する場面が少なくなっている。ホームの向かいに物産店、隣接して温泉(恵みの湯)があり利用者が気軽に買い物や入浴を楽しめるなど立地条件として恵まれている。事務担当者により書類や記録等の整理がきちんとされているので、職員は日々の実践の場で活用しやすい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を踏まえて、職員会議等で話し合い、「地域密着型サービスとしての見直しと評価の理解と活用」について前向きに取り組み改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者と職員全員で考え、話し合っ作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催し、ホーム側から利用者の生活の様子や健康状態、外部評価の結果等の報告を行い、会員からの感想や意見を聞いて、それらを日々の支援に活かしている。次回の会議では「徘徊について」警察の方を招き話し合いをする予定である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付担当者を明記している。家族が来訪時に何でも話せる雰囲気を作り、家族の不安、要望、意向等を聞くようにしている。家族から「夜勤者が一人では災害時の対応が心配」との話があったので、ホームの実情を説明して理解をお願いした。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム側から地域の行事に出来るだけ参加すると共に、ホームの行事(映画会、芋煮会、年に2回の小旅行等)には地域の方に参加を呼びかけ、地元の人との交流を深めるように努めている。向かいの物産店や恵みの湯の方達とは親しい付き合いをし、芋煮会の時には物産店から食材のカンパがある。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価に基づき、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、これまでの理念を見直して地域との関係性を謳った新しい理念を作りあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日の申し送り、月に1回開催の職員会議(今年度より全職員が参加)、日々の係わりの中で理念を確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特別会員として自治会に加入しており、市の広報や回覧板を頂き、催し物のある時には参加している。運営推進会議のメンバーの自治会長や民生委員を通して地域住民との交流が持たれ、ホームの行事(芋煮会、映画会、春秋の小旅行)に参加してもらっている。芋煮会の時には向かいの物産店より食材のカンパがあったり、隣接する「恵みの湯」の計らいで入浴を楽しむ等、地元の人との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は評価項目を職員が分担して記入し、それを事務職員がまとめ、その結果について全員で話し合い作成したものである。前回の評価については改善に取り組むクリアしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。事業所から利用者の状況、行事、外部評価の結果等について報告し、メンバーからは意見や要望を聴いて運営に反映させるようにしている。次回は警察の人を招き、徘徊について話し合う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実情を把握している事務担当者と本部の職員が主に市役所を訪れ、情報交換をしたり相談をして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や生活の様子を伝えており、状態に変化のある時には電話で知らせしている。個人別にホーム便りを作り、ホームでの生活振りや健康状態を、時には写真をつけて月に1回送っている。これは家族に大変好評である。病院受診時に家族と合流し情報を交換している方もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口は明記している。家族の来訪時に気軽に話せる雰囲気を作り、意見や要望を聴くようにしている。又運営推進会議の家族代表を通して家族の意見を聴いている。家族から「夜間、職員が一人では災害時の対応が心配」との意見があり、このことについてはホームの実情を説明し理解をお願いした。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新理事長体制になり、4月から法人内のホーム(2ホーム)間で職員の異動を月単位で行い、同じケアを提供しようという新しい試みが始められている。利用者には不安を感じないように説明し、対応にも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には段階に応じた研修を受講する機会を作るようにしている。又職員が希望すれば受講することも出来る。管理者研修、実務者研修、認知症研修、回想法の研修会等を受講しており、研修内容については会議等で報告し、職員は内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、管理者、職員は同業者との交流の機会を持ち、情報交換や研修等に参加し、サービスの質の向上に活かしている。法人本部の事務責任者が中心になり安中市内のグループホーム職員の交流会を開き、情報や意見の交換を行った。好評に付き次回開催を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学に来て利用を決めることが多い。入居後、不安を感じる利用者には家族の訪問を多くしてもらったり、生活暦等の情報に基づき、不安を感じさせないような対応を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるとの考えを職員は共有しており、日常生活の中で昔の行事や饅頭の作り方等を教えてもらう場面等があり、「ありがとう」の感謝の気持ちを添えている。又一緒に買い物に行ったり、隣接の「恵みの湯」に一緒に出かけ共に入浴を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやカンファレンスの情報を参考にしながら、一人ひとりの思いや意向を確認して対応するように努めている。意思疎通の困難な方に対しては自尊心を傷つけないように配慮しながら、表情や動作から思い等を察知して支援に当たっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から思いや希望を聴き、意向に沿って計画の原案を立て、カンファレンス等で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のモニタリングと、3か月に1回の見直しを行っている。状態の変化等により見直しの必要な場合には「モニタリングおよびカンファレンス表」を用いて、随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望や状況に応じて買い物同行、精神科等の外来受診の送迎、お墓参り、友人のお見舞い、生家を見に行く等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医とは別に協力医が男女別の日に月に一度訪問診療して下さり、診療の結果について同席した看護師が家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2人の方の看取りを経験している。医療連携体制等同意のお願いの用紙に終末期のあり方について触れており、家族の同意を得ている。看取りを希望する家族に対しては協力医、家族、職員等で話し合いながら、家族の意向に沿った対応を心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護、個人情報の漏洩については特に気をつけており、訪問者受付台帳の廃止(訪問用紙を受付箱に入れてもらうに変更)や個室の名札を取り外すなどの配慮をしている。個人の尊厳を大切にされた対応、言葉かけ、特にトイレ誘導時の言葉かけについては注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら個々のペースに合わせて支援している。朝食も利用者に合わせて時間をずらしたり、居室での対応をすることもある。酒やタバコも自由であるが現在は嗜む人はいない。訪問時もテレビを見たり、新聞を読んだり自由に過ごされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやインゲンのすじとりなど利用者と職員は食事の準備を一緒にし、出来る人は下膳をしている。利用者の食事介助の関係で、現在は利用者と一緒に楽しみながら食事を取るのには困難な状況である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月、火、木、金が入浴日となり、水、土は隣接の「恵みの湯」を利用している。時間は午後2時から3時半位までとなっている。拒否のある人には対応の工夫をしたり、翌日に回すなどの配慮しており、少なくとも週に1～2回の入浴を心掛けている。又、希望すれば毎日でも入浴をすることが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、花の水やり、みかん狩り、向かいにある物産店での買い物、月1回開催の映画会、家族や運営推進会議のメンバーと一緒に小旅行等、役割、楽しみごと、気晴らし等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じて、散歩、買い物、玄関先での外気浴、近くの公園でのお花見など出来るだけ戸外に出て外気に触れる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出るのにデイサービスの場所を通るのでデイサービスの人が気をつけてくれたり、見守り等の工夫をすることで鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て全員で避難訓練を行っている。今後、夜間を想定した訓練を予定している。近隣の人たちには協力を依頼しており、運営推進会議でも話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスからの取り寄せなので栄養のバランスの取れた食事を提供している。食事や水分の摂取量をチェックし、記録しているが、水分については徹底されず、記録漏れが見られる。	○	水分摂取の大切さについては全職員が共通認識として持っており、記録のスペースも用意されているが、チェック、記録の空白の部分が見られるので、記録の徹底を期待する。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓や共用空間には季節の花や、窓際には季節の野菜を植えるなど季節感を取り入れる工夫をしている。壁面には行事の写真や絵画等を飾り、安心して居心地良く過ごせるような配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、整理ダンス、椅子、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等利用者一人ひとりに合った品物が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるような環境作りがされている。		